

10 西部ブロック

（1）地域づくりの目標

① 地域の概況

西部ブロックは、曾左・白鳥・太市・林田・伊勢・峰相・青山校区からなる地域です。

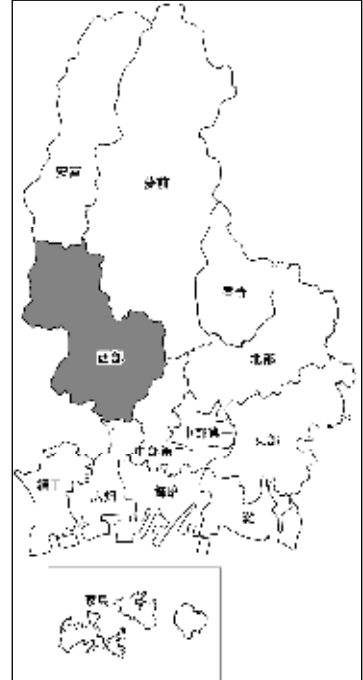
本地域は、西播丘陵県立自然公園に指定されている書写山等の山地・丘陵や、夢前川等に囲まれた丘陵・田園地域となっています。

地域内は南北に連なる丘陵でいくつかに分かれ、菅生川、大津茂川、林田川のそれぞれの流域には、田園風景の広がる市街地、集落が形成されています。

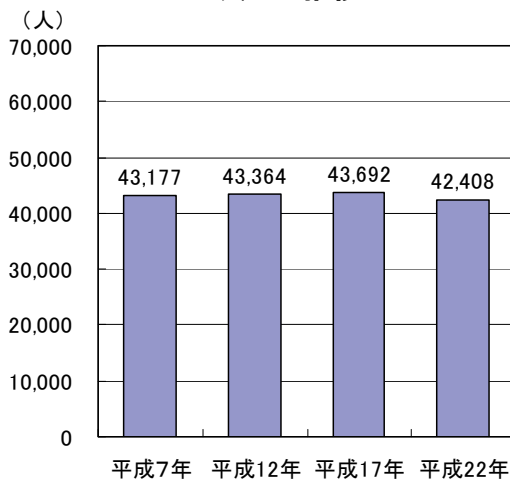
因幡街道が通る交通の要衝で林田藩の陣屋町として栄えた林田地区や、西国街道（山陽道）や因幡街道の要衝であった青山・飾西地区では、陣屋町や宿場町としての歴史的な町並みが残っています。

現在は、広域交通を受け持つ山陽自動車道や国道29号南線（姫路西バイパス）が通り、姫路西インターチェンジ等が設置されています。また、地域を南北に連絡する国道29号や、地域を東西に連絡するJR姫新線が通り、JR余部駅・太市駅が設置されています。

書写山や桜山貯水池等の豊かな自然環境、陣屋町や宿場町の歴史的な町並みに加え、書写山円教寺等の地域に点在する文化財など、これらの自然環境や歴史文化遺産が地域の魅力となっています。

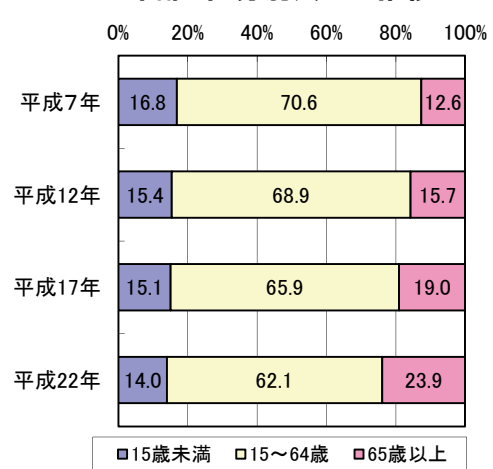


■ 人口の推移



資料：国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

② 地域づくりのテーマ

豊かな自然と歴史にふれあえる緑住都市

③ 地域づくりの目標

◇ 利便性の高い交通拠点づくり

JR余部駅・太市駅を中心として、公共交通機関の連携強化や地域の実情に応じた土地利用を誘導し、日常生活の利便性を高める交通拠点の形成を目指します。

◇ 豊かな自然や田園環境を生かしたレクリエーション空間づくり

書写山や桜山貯水池等の豊かな自然環境、菅生川・大津茂川・林田川流域に広がる田園環境、さらには地域に点在する歴史文化遺産の保全、活用により、多様なレクリエーション空間の形成を目指します。

◇ 緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地づくり

市街地を取り囲む丘陵周辺に開発された住宅地を中心に、道路や公園等の都市施設が整い、周囲の緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地の形成を目指します。



書写山円教寺



林田町六九谷の歴史的町並み

（２）地域づくりの方針

① 拠点等

ア 地域核

- ・ J R 余部駅周辺地区を位置付けます。
- ・ 地域の拠点として、交通結節機能の向上を図るとともに、幹線道路の沿道地区を含めて、商業施設の充実を図り、地域住民の日常生活における利便性を高めていきます。

イ 歴史街道軸

- ・ 本地域には、書写山円教寺、林田藩陣屋跡等の史跡、林田の陣屋町や青山の宿場町など様々な歴史文化遺産があります。これらを地域資源として総合的に保存、活用していくため、西国街道や因幡街道等の古道を歴史街道軸として位置付け、街道沿いの歴史的町並みを保全するとともに、地域に散在する歴史文化遺産を散策、回遊できる歴史・文化ネットワークの形成を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・ J R 余部駅周辺の商業業務地では、夢前川と J R 姫新線に挟まれている地形的要因から、幹線道路沿道を含めた範囲で近隣商業施設や生活利便施設を誘導します。

イ 工業系

（インターチェンジ・ランプ周辺）

- ・ 姫路西インターチェンジ周辺や太市・相野出屋敷・下伊勢ランプ周辺において、無秩序な土地利用を整序、抑制しながら、インターチェンジ及びランプ周辺の特性を生かした流通業務施設や工業施設等の立地を適正に誘導します。

ウ 住宅系

- ・ 商業業務地周辺の複合住宅地では、軽工業等との調和のとれた住宅地の形成を図ります。
- ・ 林田地区においては、田園環境との調和を図りつつ、生活利便機能や交流機能を備えた住宅地の形成を図り、ゆとりある暮らしやコミュニティの育成を図ります。
- ・ 青山地区等の山麓部に開発された専用住宅地では、緑豊かで閑静な住宅地として、低層住宅を主体とした良好な住環境の保全を図ります。また、市街化調整区域に点在する住宅団地では、地区計画制度の活用により、現在の住環境の維持、保全を図ります。

（鉄道駅周辺）

- ・ J R 太市駅周辺地区において無秩序な土地利用を整序、抑制しながら、駅周辺の特性や実情に応じた適正な土地利用を誘導します。

エ 保全系

- ・書写山等の市街地を取り囲む丘陵は、良好な都市環境や都市景観を形成する重要な緑として保全を図ります。
- ・書写山については、地域を代表する自然環境や書写山円教寺等の歴史文化遺産に触れることができる拠点として、貴重な自然環境や歴史的風土を損なわない範囲での利用環境の向上を図ります。
- ・菅生川、大津茂川、林田川の流域に広がる農地については、農業振興地域に指定されており、農業基盤整備や集落の環境整備を図りつつ、集落景観等を創出する緑として保全、活用します。

③ 都市施設

ア 交通

ア) 公共交通

- ・JR余部駅・太市駅においては、都心部に向かう放射状道路の混雑を緩和し、地域内交通の円滑化を図るため、パークアンドライドを推進します。
- ・書写付近～姫路駅間の路線バスについては、バス優先レーンの設置や公共車両優先システムの導入等により定時性、速達性を高めます。また、（仮称）書写バスターミナルにパークアンドライド用駐輪場を整備し、利便性の向上を図ります。
- ・公共交通空白・不便地域においては、地域住民、交通事業者など多様な地域関係者と連携しながら、コミュニティバスの導入など生活交通の維持、確保に向けた取組を推進します。

イ) 道路

- ・放射道路を構成する国道線（国道2号）及び田井線並びに国道29号北線（国道29号）等の放射道路を骨格とした幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。

イ 公園・緑地

- ・自然観察の森、宿泊型児童館（星の子館）、姫路科学館（アトムの館）、県立こども館等と一体となった、子ども達の豊かな感性と創造力を育むレクリエーションの拠点として桜山公園の適正な維持管理と利用環境の向上を図ります。
- ・伊勢自然の里・環境学習センターでは、幅広い世代が楽しめる環境学習施設として、多様な生き物が生息できる環境を守り育てていくための取組を進めます。
- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。

ウ 下水道・河川

- ・農業集落排水の公共下水道への統合を進め、改築更新費用及び維持管理費用の節減を図ります。

- ・都市化の進展に伴う雨水流出量の増大と集中豪雨による浸水被害の軽減を図るため、計画的な雨水排水施設等の整備を図ります。

④ 防災

- ・地域防災拠点として西出張所、林田出張所、書写中学校、林田中学校を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・森林、緑地の持つ保水機能等の保全と土砂災害等の防止を図ります。

⑤ 景観

- ・林田地区や青山地区等の古道沿いの歴史的町並みを、歴史的町並み景観形成ゾーンとして位置付け、陣屋町や宿場町のたたずまいを残す歴史的景観の保全、継承を図ります。
- ・景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。



凡		例		
土地利用		都市施設		
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路	主要公園・緑地・墓園
商業業務地	専用住宅地	幹線道路（環状）	歴史街道軸	一級・二級河川
工業地	農地・集落地	幹線道路（放射）	J R線	水辺
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路（その他）	山陽電鉄	

■ 西部ブロックの将来像